

昭和48年度第一回核データ検索システムワー キンググループ議事録

日 時 昭和48年5月10日(木) 13時30分~17時30分
場 所 日本原子力研究所東海研究所V.d.G建屋29号室
出席者

五十嵐 信 一(原研)	加 藤 和 明(高エネルギー研)
金 森 善 彦(三井造船)	川 合 将 義(NAIG)
河原崎 雄 紀(原研)	中 川 庸 雄(原研)
中 嶋 龍 三(法大)	成 田 孟(原研, オブザーバー)
西 村 和 明(原研)	八 谷 雅 典(三井造船)
更 田 豊治郎(原研)	山 越 寿 夫(船研)
山 本 正 昭(日立, 松岡代理)	

議 事

1. 重ね合せプロットの件

- この件に関しては去る3月23日本委員会の席上、次の様なコメントが出ている。

「評価済みデータ、実験データの一部には非公開のものがあるので、系統的にプロットをして出版するのは問題である」

このコメントは我々の今後の作業方針に大きく影響するものである。我々の作業をどう進めるべきか、さらにその結果をどうまとめるべきかについての議論を行なった。その結果、最大の問題は出版という形をとると非公開のデータが不特定多数の人に渡る事であることが明確になった。どういった形で結果をまとめるべきかについては結論がでなかった。結局、テストランを行ない、その結果をCCDN, BNL, UK等に送り、意見を打診することを検討する。

- 成田氏が資料を元にプログラムの説明を行なった。プログラム名は

SPLINTといい、現在は角度分布データのプロットができない。プログラムの機能、インプットの方法、サンプルランの結果が示された。

○ 今後のテストラン

予定通り一人一核種を受け持ってテストランを行なう事にした。反応は total, capture, fission, inelastic scattering, elastic scattering等について行なう。担当する核種は次の通りである。

河原崎	Al	加藤	Ag
五十嵐	O	山越	Fe
川合	^{239}Pu または ^{241}Pu	八谷	^{242}Pu
更田	Cr	中嶋	Mo
西村	^{235}U	金森	Ni
山本	^{240}Pu または ^{241}Pu		

また、ENDF/Bの共鳴を含むデータについては、RESENDを使ってパラメータから cross sectionを作る必要がある。RESENDは中川が担当する事にした。さらに、テスト中に問題が生じた場合は成田氏が問題を検討する事とする。

- プログラムの修正は問題点が出そろった時点で行なう。
- CCDN, BNL, UKへの問い合わせの形式は西村、五十嵐、更田が検討する。
- プログラムのマニュアルは担当者が書く。さらに担当者は、角度分布データのプロットについて検討する。
- タイムスケジュール

(イ) 5月中 RESENDの作業を行なう。さらにNESTORのindexを作成し、担当者に渡す。

(ロ) 6月中に各担当者はプロット作業を行なう。原研以外の委員はイン

ブックデータをシートに書き、五十嵐に送る。

(1) 7月上旬のWGで結果を検討する。

2. ワーキングメンバーの確認

金森委員の所属が原研から三井造船に変わった。

3. グループ代表交代

更田委員が継続してグループ代表に引き受けることになった。

4. 49年度以降の計画

WGのあり方、今後の見通し等について議論をした。次回にもう一度WGのあり方について話し合う事にした。

5. 次 回

7月6日(金)予定

以 上